

恵み野臨床心理室 第2回講演会のお知らせ

本年4月1日、心理相談と研究を兼ね備えた心理臨床機関として、恵み野臨床心理室を開設しました。

第2回講演会を下記の要領で開催いたします。テーマは“身近にある心”です。皆さまのご参加をお待ちしております。



【講演テーマ】

『思春期の子どもの心の世界を理解する ～ スクールカウンセリングから見えてくる子どもの姿』

日時：2024年11月10日(日) 14:00～15:30 (13:00 開場)

場所：恵庭リサーチ・ビジネスパーク (RBP) 3階 視聴覚室

定員：30名

主催：恵み野臨床心理室；〒061-1374 恵庭市恵み野北 3-1-1 恵庭リサーチ・ビジネスパーク E305

後援：北海道恵庭市教育委員会・藤女子大学



講師紹介：明星大学大学院心理学研究科教授 **福田 憲明** 先生

国際基督教大学大学院教育学研究科修了 臨床心理士：現在 大学院心理学研究科長

専門領域：思春期青年期臨床心理学 学校臨床心理学 心理療法技論

所属学会：日本心理臨床学会、日本コミュニティ心理学会、日本精神衛生学会

(主な論文)

- ・スクールカウンセラーの実際—これからの学校における心理臨床—
- ・児童生徒のこころ・いのちに向き合う学校臨床心理士
- ・スクールカウンセラーの個への関わり
- ・スクールカウンセラーの今後の展望と課題 ほか多数

(講演概要)

「思春期」、この不思議なことばからどのような連想が浮かぶでしょうか？ 難しい時期、反抗期、繊細で傷つきやすい、自分の殻にひきこもる、といった姿でしょうか？ あるいは背伸びをする、子どもからの脱却、変身メタモルフオーゼの時期、新しいスタート、親からの自立といった姿でしょうか？

思春期は、からだも心も大きく変容していく時期です。子どもは自分自身を外から内から揺さぶられるような体験をします。早く大人になりたい渴望と、まだ子どもでいさせてほしい甘え、親離れが迫る寂しさや、刻々と変わっていく身体を経験し自分を受け入れることへの葛藤、将来の自分が見えずに怯えてしまうこともあるでしょう。多感な時期であり、また言葉でうまく自分を表現できない時期でもあります。表現が拙く、時に思いや気持ち直截的な行動として表れてしまうこともあるでしょう。これまでの親が決めた枠を外れていく子ども。このような子どもを前にして、大人は頼もしく感じるとともに、時に戸惑い、疑い、苛立ち、無力を感じるものです。そのような時、大人は何を望むでしょうか？子どもの声が聴きたい、子どもの助けになりたい、子どもとうまく距離を取りたい、子どもを世間に送り出したい、ぎゅっと抱きしめたい、手を差し伸べたい、肩を貸したい、背中を押したい、様々な気持ちが渦巻くでしょう。

本講演では、**思春期臨床心理学**の知見や**スクールカウンセリング**の実践から思春期の子どもの理解に役立つ考え方と、関わり方の心の構え方について紹介したいと思います。参加者の皆様とできるだけ交流を持ちたいとも考えています。子どもの育ちを促すような関わりを一緒に考える時間としたいと思います。

*参加申し込み方法は次のとおりです。なお参加費 2,000 円は事前振込となります。

- ① 「恵み野臨床心理室 (<https://hokkaido-mocp.com>)」で検索し、ホームページを見る
- ② ホームページの「申し込み」欄にある申し込みフォームに記入後、送信する
- ③ 参加受付案内メールが届く。振込先は「参加受付案内メール」に記載されています。
- ④ 指定の振込先に、参加費 (2,000円) を振り込む。その際の振込手数料はご負担ください。
- ⑤ 振込を確認後、参加受付終了メールが届く。領収書はメール添付とさせていただきます。



こちらからアクセス